年度末・年度始めの取組
～不登校対策～

学校教育課通信
平成２９年３月２２日（水）　第１３３号
編集・発行：県南教育事務所　佐藤　晃

県南域内の小学校の不登校児童数、昨年同時期比１．７倍増
中学1年の不登校生徒数も、昨年度同時期比１．２倍増
小学校の不登校、中1ギャップの解消が県南域内の喫緊の課題です。

生徒指導訪問などを通して、各学校の取組をお伺いしますと、本当に一生懸命、そして、献身的に不登校児童生徒に対応されていることを感じます。その取組は、必ず子どもたちの心に響いていると思います。それでも、なお、不登校児童生徒が増加しているという現状を踏まえ、不登校対策の取組について２月に県教育委員会が発行しました**「不登校対応資料vol.5　豊かな学校生活のために　～チームで切れ目のない援助を～」（義務教育課HP）**を参考に掲載いたします。

基本１　不登校が生じないような楽しい学校・学級づくり

「自己決定の場」「自己存在感」「共感的人間関係」の生徒指導の三機能を大切にした学校・学級づくりを日々意識していきましょう。

子どもたちが安心できる雰囲気づくりを。
そして、子どもたちの笑顔を大切に。

基本２　新たな不登校児童生徒を出さない取組

学校の中で困っている児童生徒を早期に発見し、的確な対応を心がけましょう。
困っている児童生徒には、個々に合った援助計画を作成し、組織的・計画的で継続的な援助を行いましょう。

早期発見のポイントは、先生方の目です。
「この子、困っているな」と感じる先生方の感覚を大切にしてください。
そこから、すべてが始まります。

不登校対応は、はじめの１週間がカギ

- ○　欠席したら、朝、欠席連絡があっても**夕方には電話連絡**を。
- ○　**欠席が続いたら管理職に報告し家庭訪問**を。
- ○　**連続欠席7日目**から、SC，SSWを含めた複数の目でアセスメントを行い、援助計画の立案を。

T:「大丈夫？」 C:「大丈夫です。」という会話のかげに

アンケートで困っている状況を確認したら、きっと先生方は「大丈夫？」と聞くでしょう。
そして、子どもたちは「大丈夫です。」と答えるでしょう。
でも、本当に大丈夫だったら、アンケートには書きません。
寄り添って、本当の気持ちを聞きましょう。

基本３　　不登校児童生徒の学校復帰に向けた取組

「やるべき援助」と「できる援助」が必ずしも一致するとは限りません。
「できる援助」から「最もやるべき援助」をさがして、継続していきましょう。

年度末・年度はじめにやっておきたいこと

進学、進級する学年末・学年始休業の間、不登校の児童生徒にとって、新学期の期待と不安は人一倍大きいでしょう。
不安を軽減し、期待をふくらませることを目指して、不登校児童生徒への関わりを大切にしていきましょう。

長期休業中も、切れ目のない関わりを

早寝早起きをしている？
よい生活リズムだね。

学年末・学年始休業の期間中、年度を越えての担任や学年、部活動顧問からの働きかけは、不登校児童生徒の心のハードルを一段階低くすることが期待できます。
不登校児童生徒の負担にならない、ちょっとした短い電話や家庭訪問が効果的です。

小中学校の引き継ぎはより確実に

スクールカウンセラーの教育相談を受けていたことも伝えよう。

平成２８年度は中学１年生の不登校生徒数が急増しています。
中１ギャップを少しでも解消するための取組を各中学校区内で実施されているとは思いますが、引き継ぎをより確実に行い、学校間の切れ目のない援助をしていきましょう。

似ている！ ネット依存になりやすい子どもと不登校の要因

ネット依存になりやすい子

- 学校でうまくいかない。
- 周囲の人や家族とうまくいかない。
- 心や体に問題を抱える。

不登校の要因

- いじめを除く友人関係をめぐる問題（26.3%）
- 学業不振（19.8%）
- 家庭に係る状況（37.7%）

ネット依存は

- 短期間に深刻化
- 放っておくと深刻化

ネット依存の対応策

- 早期発見・早期介入が必要
- まずは本人から話を聞く

不登校をきっかけにネット依存になるケース、ネット依存をきっかけに不登校になるケースが増えることが懸念されます。
ネット依存は、一度なってしまうと、引きこもり、昼夜逆転などの症状が複雑化して、治療も困難です。
ネット依存への対応策を常に心がけましょう。